

新・群馬県総合計画策定懇談会（第5回）議事概要

1 日時

令和2年11月17日（火） 15時30分～17時30分

2 場所

群馬県庁6階 秘書課会議室（Web会議）

3 出席者数

策定懇談会構成員12名、県関係者約25名

4 議題

新・総合計画ビジョン検討案について

5 構成員の主な意見

（新・総合計画ビジョン検討案について）

- ・ 群馬ならではの何だろうか、という話についてだが、今後のプロセスの中でいうと、おそらく何か群馬らしいことというよりは、活動している人で特徴が出てくるだろうと思っている。それは群馬の中に住んでいたり、ビジネスをしている方だけではなくて、関わる人というのもあるのかなど。そこに群馬らしさが出てくるのだろうとっており、その柱はおそらく官民交流になると思うが、非常に大事だと思っている。
- ・ ローカルなスマートシティを作るという場合に、いわゆるプラットフォームやエンジンは同じものを皆で使う方がコスト的にも安くなると思うが、そこに入り込んでくるデータは、地産地消が大事ではないかと思っている。プログラミングも重要だが、それと同じぐらいに、データをどう作るかということも重要だ。
- ・ 誰一人取り残さない施策というのは、大きく掲げつつ一人一人に対してどんなことができるか、ということが問われるので、すごく大きな風呂敷の中に丁寧な小さなものが入っているような形で、とても難しいと思うが、丁寧な施策が執行されることを期待している。
- ・ リアルとバーチャルをどう融合していくかは、まだまだ年齢や健康による格差がある中でそうしたことができる方は本当に限られている。実際に、多くの高齢者を中心に、コロナを怖がりながらも、不定愁訴等々がありリハビリ等に通われているという現実を目の当たりにしてきた。
- ・ 始動人を育成するという観点の中での教育を受けた子供たちが、自分で考えたり、両親やおじいさんおばあさんも巻き込みながら動いていくと、誰一人取り残さない形での県民の幸福というものが実現できるのかなと思う。
- ・ 行政と教育のデジタルトランスフォーメーションのアウトカムの部分について、デジタルトランスフォーメーションにより効率化するだけではなくて、アウトカムでどういことができるのかがポイントだ。例えば、行政のデジタルトランスフォーメーションであれば、データによる行政参加や政治参加のような形のものがないものか。教育のデジタルトランスフォーメーションについては、パソコンを与えたり皆でソフトを作るだけではなくて、実際こんなことができるということをOJT的にやっていったらどうかと思う。

- このビジョンは群馬県の将来のフィロソフィーがまとまったものであると感じた。基本計画という形で、これをいかに具体化していくかということが大切になるのかなと感じている。また、いかに県民の方々に当事者意識を持っていただくかということが大切だと思っている。一定以上の年齢の方はもちろんだが、高校生や大学生にもこのビジョンを理解していただいて、自分達がこの群馬県を作っていくんだ、なんだか群馬県はこれからワクワクしそうだ、楽しそうだ、自分も活躍できそうだ、と感じてもらうことがこのビジョンが持つ大きな役割なのではないかと思う。
- 群馬県が県内全域を盛り上げるための基盤を作ったと思う。これを土台に、各市町村が自分たちの固有性をどう掘り起こして耕すか、各市町村のビジョンと計画でどうしていくのかというのが少し気になっている。色々と多様性のある地域が発露すればいいと思う。
- 今後、ビジョン案を群馬県民の方に理解していただくための広報戦略はすごく重要ではないかと思っている。三つの幸福が調和した社会の実現に向けて、県が動き出している様子とか、現在伸び伸びと群馬で活動している人の様子とか、これから一歩踏み出そうとしている始動人の姿をそのまま発信してプロモーションにするというのが格好いいかな、と思う。本人達が自らの意思で発信しているという形が一番いい。大切なのは、見た人が自分の選択肢の一つとして受け取り、自分もその中の1人だと感じられることだ。その方法や媒体は、SNS や YouTube、漫画、ショートムービーでいいと思う。珍しい何かをするよりも、内容、質、タイミング等、受け取り手の目線に立って、県と市町村が足並みをそろえて長期戦で臨むものだと思う。